

大丸用水を歩く

福田恵一 2021.5.3

5月1日、稲城に異動した関さんの誘いで、稲城市内を流れる大丸用水を歩いてきました。

大丸用水は、多摩川の水を南武線多摩川鉄橋の上流にある堰①で取水し、稲城市から川崎に入って三沢川に落ちる今も現役



①

の農業用水です。玉川上水のように段丘面を上がって台地を潤すことはありませんが、多摩川東岸の平野部に網の目のように支流を出して、田んぼや梨園に利用されているようです(排水路としても重要な役割を持っている)。開削年代ははっきりしませんが、おおよそ17世紀ころに作られたようです。それが整備・改良され(取水堰のコンクリート化は、三沢川分水路・排水路とともに1959)近代以降整備が進み、今の姿になったのは、多摩ニュータウンのがつづられ、さらに周辺の農地が宅地化される1980年以降と思われます。

堰を出てすぐに三沢川分水路(排水路)と立体交差し、その後多摩丘陵のワキを流れてきた用水は、南多摩駅前の分量公園②で山側(大堀)と平野側(管堀)に分かれます。平野側の水路(管堀)が遊歩道としてつながっているのので、そちらをたどりました。途中、いくつかの分岐(大きく左へ分かれるのは押立用水④)、上の用水からの水路との立体



②

交差③、わずかに残っている田んぼ⑦なども見られ、また、ところどころ子どもが水遊びも可能な親水公園⑥にもなっているところもありました。

下水道が整備され生活排水が入りませんから、水はそこそこきれいで、散策や水遊びなどは新しい用水の使い方と言えます。

そここの水路にほぞ(溝)がきつてあるの⑤は、水位を調節するためのサブタをはめこむためのもの。それで、微妙に水位、水量が調節されているのでしょう。

途中、ショートカットして、稲城長沼から稲田堤まで南武線に乗り、そこでまた大丸用水(管堀)を探します。いくつにも分かれた用水のうち、南武線の北側を通る北堀が住宅地の中を流れていました。

この北堀は、最後に南武線の線路脇に顔を出し、南武線の三沢川鉄橋の近くで三沢川に落ちていました⑧。このあたりの三沢川は、排水路として利用されているようで、深くなっています。(三沢川の流路が、平野部の山側を蛇行していて不自然と思われましたが、古い地図で見ても、流路が大きくは変えられていないようです。つまり三沢川は、扇状地の扇頂から、扇状地のワキを流れ、大丸用水はその三沢川と多摩川にはさまれた扇状地・自然堤防による微高地であると思われる稲城の平野部を流れているのではないかと)



③



④



⑤



⑥



⑦

その三沢川は、そこからわずか多摩川に合流するのですが、その合流点のすぐ上流で川崎市内の沖積面(平野)に引水する二ヶ領用水が取水されます。そこで、多摩川に二ヶ領用水調布堰⑨があって水位を上げています。が、排水路となった三沢川は、水位が上がった部分には合流できないので、多摩川の手前で、三沢川と二ヶ領用水は立体交差し、三沢川は、堰の下の多摩川に流れ込んでい



⑧

ました。(二ヶ領用水が上、三沢川が下です)

あたりまえなことですが、地形と水との関係を考えさせられた散策になりました。

←Googleマップ航空写真



⑨